

# 如月俳句・短歌集

## 篠南川柳会

お小言は聞いたふりして上の空  
ちらし寿司そつと寄り添う紅しようが  
山積みの本は動かさずホコリ積み  
ほほ紅が可愛い母は認知症  
あれ食うなこれも悪いと処方せん  
年金を待ち兼ねている空財布  
紅差せば余計に目立つシミシワが  
茶も出さずゆっくりせよと世辞を云い  
あの世までついてこないで貧乏神  
師走には掃除多すぎ間にあわず  
輸入品国内市場食い荒らす

## 菊川俳句会

友訪へば小さき部屋で冬眠中  
枯れ枝にテニスボールの実二つ  
盃を持って集まれ牡蠣が旬  
遠山は白く里山は大根干す  
閉校と決まりし子等とゞ作り  
初夢や共に在りたし首都五輪  
霰降る言葉巧みなセールスマン  
庭の木も春の訪れ呼びかける  
歳暮紅まどんな恭しくてあり

田中すみ子  
田中 保美  
木本 清子  
田村 京子  
芝田 憲蔵  
谷口千代子  
前田由紀子  
松本もとお  
松本 安子  
篠原みち子  
射場ちずる

## 内海俳句会

あけまして三日坊主の日記買う  
梅の枝空の青さに背伸びして  
みかんの実黄色い指にはしゃぐ子に  
名湯の素かきまぜて初湯かな

橋本ひかる  
鱒 瑞貴  
小野山果林  
村尾加都子  
太田 信子  
岩森十志子

## さわらび短歌会

諸々の人のやさしさに支えられ九十五回目の春を迎えん  
釣り好きの従兄弟の休暇もあと少し釣りたて刺身の味わい深し  
小柄の夫風格欠くも婚前に新居文具店オーナーなりし  
お大事にと言ふ看護師にハイしますと言へばあけっぴろげに笑ふ  
病癒えて妻の作りし久々の湯気立つ食事に安らぎのぼる  
「今日は」元気な声の少年にバツと明るくバスの中なる  
蜘蛛の巣を払いて夫と山路行くアサギマダラの姿を追いつつ  
難聴の吾の扱い子は慣れて時には巧みにジェスチャーをする  
高茂岬の真昼穏しく日の差して傾り一面のぢぎくの花  
お千代さんの歌に思い出ある人ら沿道うめて極見送る  
北風に落ちる夕陽は煽たれてわが家も一瞬暗くなりたり  
短冊に文字整わず立つ窓にきのう吊りたる干し柿揺るる  
帰る列車のホーム間違え晩くなりしとマドロスの息子陸は苦手と  
ラジオから父母愛唱の「薊の唄」惣菜作りの手を休め聞く

田中久二恵  
扇野八代生  
宮本よりこ  
吉田 信保  
澤近 正弘  
木本 清子  
河上 明美  
岩村千代子  
前田 充  
前田 知子  
前田 昭夫  
松本マス子  
山本 豊子  
山崎 能子

## はじめまして。赤ちゃん。

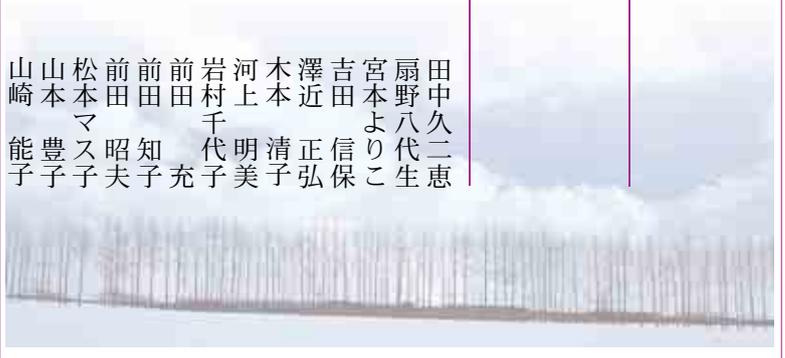
12月受付分(敬称略)

地区名	子の名	保護者
-----	-----	-----

## ご冥福をお祈りします。

12月受付分(敬称略)

地区名	亡くなった方	享年
-----	--------	----



※上記情報は、広報誌掲載に対して、ご家族等に同意をいただいております。